

放射性物質拡散シミュレーション結果を受けた 今後の県の対応について

危機管理部門 原子力防災室

1 原子力防災対策の充実・強化・・・・・・・・平成24年度9月補正予算

(1) 安定ヨウ素剤等の整備(9.4万人分)

甲状腺放射線障害の予防薬である安定ヨウ素剤(40歳未満の者に有効)について、予防的服用が必要となる可能性のある地域の住民や、そこで活動する職員が服用する目的で配備

(2) 可搬式空間放射線量測定器(既存3台+新規5台)

緊急時における綿密なモニタリングを行うため、空間放射線量の移動測定器を配備

今回の調査を踏まえ、モニタリングを強化する地域を重点化して配備

- ・ 関ヶ原町をはじめとした、モニタリング体制の手薄さが判明した地域を重点に可搬型測定器を配置
- ・ 郡上、飛騨、東濃地域においても放射線量が検出されるパターンもあることから、県内全域に迅速に展開できるよう、可搬式測定器を配置

(3) 身体汚染検査用放射線量測定器(既存2台+新規7台)

緊急時における身体汚染検査を実施するための機器を配備

今回の調査を踏まえ、1週間以内の避難が必要とされる「年間100mSv以上の区域」をもとに必要台数を算出

(4) 防護服、保護眼鏡、防護マスク、防護用手袋等

放射線量測定器の配備数をもとに、活動する職員が着用するための装備を配備

(5) ポケット線量計

放射線量測定器の配備数をもとに、検査職員の被ばく管理のための線量計を配備

2 地域防災計画等の見直し・・・・・・・・・・平成24年度内

(1) 県地域防災計画の修正

このシミュレーション結果を踏まえ、県地域防災計画に必要な対策を明記し、具体的な対応手順を定めるマニュアルを改訂・整備

- ・ 緊急時モニタリング計画策定
：モニタリング設備・機器の充実、要員の確保
- ・ 避難：市町村への助言・支援（避難所指定、避難誘導、避難方法の周知）国の避難指示の市町村連絡、避難状況の確認、市町村活動への協力
- ・ ヨウ素剤：ヨウ素剤の配備、国の方針又は独自の判断による服用指示

また、国が定める原子力災害対策指針に基づいて、県地域防災計画にUPZの具体的範囲を設定することとなっているが、このシミュレーション結果を踏まえ、UPZの弾力的設定に関し国に要請

(2) 市町村地域防災計画の修正の支援

県地域防災計画見直しの方向性、見直し内容について十分市町村と連携・調整し、市町村地域防災計画の修正を支援

3 原子力防災体制の検証・・・・・・・・・・平成24年度内

原子力防災訓練の実施

県地域防災計画の見直し、原子力災害対策マニュアル、市町村との連携等、強化した体制の検証を行うため、市町村等と連携した原子力防災訓練を実施